



あけましておめでとございます

今年も優秀花をめざし
健康で実のある年に
なりますように



かわらばん 第115号
2020年1月号

めざせ優秀花。ここに気配り、資材を生かし夏を乗り切る！



11月2日撮影

暑さ対策は土づくりと肥料選びで乗り切る

近年の夏の暑さは菊の栽培環境を大きく変えています。先輩から受け継がれてきた伝統的な作り方では対処できない部分ができ少しずつ変わってきています。

また、土や肥料などの進化や今までわからなかったことが解明されるなど、栽培技術の進歩などにも一因があると考えます。昨年の菊つくりを振り返ると“よくできた方とそうでなかった方”の差が予想外に大きかったと思います。

“菊つくりを始めて最高の出来映え”と言ってる方と“半分の株を枯らしてしまった”など多くの愛好家の方がいます。

いろいろな質問の中で特に頻繁にあったのは、「背丈が伸びない」「葉っぱが大きくなるらない」などの生育不良の問題と下葉の黄化症です。

このような質問をされた方は、当社の土と肥料を系統的に使用しているわけではなく、多くの他社資材との混用をされている方が非常に多いことが「お買上げ伝票」からわかってきました。

「枯らしてしまったり」「極端な生育不良」に陥った方は未熟な

腐葉土（発酵不足）や定植時、乾燥肥料の鉢中段への多量施肥が一番疑われます。（未発酵の有機肥料ならさらに問題は大きい）

優秀花を咲かせる土づくり — 必要なことをひとつひとつ積み上げるだけ だれでもできます。

生育の良い腐葉土づくり…リン酸補給は忘れずに（腐葉土の作り方参照）

腐葉土は培養土づくりの要です。培養土の完成度を左右する最も重要な要素です。

空気の流通を保ちながら発酵し、完熟させることが最重要です。

そして秋から冬の気温の低い時期に作るのが良質な腐葉土づくりができます。

発酵する上で注意することはポリ容器（ゴミ箱）など空気の流通のないものは使用できません。（穴を明ければOK）

米ヌカは入れ過ぎない（極力少なめ。落葉 100 リッ

トルに対し2～3リットル以内）油カス等チッ素分の多い材料は使わない。

※菊バラ等花づくりの腐葉土は、リン酸は充分に、チッ素分は極力少なくすることがイイ花を咲かせるコツです。

通気性のあるドノウ袋等に入れ熟成させる。（直射日光は避ける）



通気性が大切

購入腐葉土は要注意 ……

購入腐葉土は上記の条件を満たすものは売られていないのが実情です。

落葉 100%（木の葉 100%）の品を見つけて“腐葉土源＝発酵菌＋有機リン酸”2～3ヶ月発酵して使用することをおすすめします。

なお、ブロック状になった輸入品は腐葉土ではなく枯れ葉と考えるのが妥当です。上記のように発酵して使

うことが重要です。

参考：当社でリン酸補給と微生物を増殖した菊つくり最適化した腐葉土があります。購入するならこれがおすすめです。



当社の土及び肥料を使用している方は最高の結果が生まれています。ぜひおすすめしたい資材です。

培養土づくりの基本…リン酸は元肥で効かせることが重要

配合時に乾燥肥料や油カス等、チッ素濃度を高めるものは入れない。赤玉土はそのまま配合すると、リン酸を横取りしリン酸の効きめの悪い培養土が出来てしまう為に「土の素」で改良してから配合します。(赤玉土の改良法を参照)

リン酸を補給する場合はゆるやかに長く効くバッドグアノや焼成骨粉などの有機リン酸を使用します。

過リン酸石灰等の水溶性のものは、水掛けにより流れてしまう為不適當です。

また、配合に当たっては水ハケを重視するあまり粗大物を入れ過ぎないようにすることが大切です。

配合が終わったら有益微生物の増殖を促す為、空気の流通のある土嚢袋(ドノウブクロ)等に保管し、熟成して使用します。

腐葉土の発酵の状態(目安)



ポット・小鉢上げ用



定植用



配合後1~2ヶ月
熟成後の植え込み用



使用不可

赤玉土を改良しリン酸の効きめを高める

菊づくりの培養土の土壌は赤玉土を使うのが一般的です。本来なら田土・荒木田など粘土質の強い土が生育がよく“木がよくできる”のですが、現在では入手がむずかしくなっていました。

そこで全国各地でもいつでも手軽に買える赤玉土が一般化しました。

ところが赤玉土は火山灰土であり、ヤせた酸性土であり、リン酸吸収率が高く、リン酸が効かない為に、チッ素過剰の生育をする原因となります。

そこでこの欠陥を改良するとともに、リン酸補給をすることで健全かつ生育の良い土に改良して使用することが最重要です。

プレミアム土の素による赤玉土の改良

使用材料



完成



約2週間後

全面菌糸でおおわれている



拡大

暑さ対策 試験結果

夏の暑さにより生育が止まってしまう例がよくあります!!

高温ストレス 緩和剤

こんなモノがあれば
解決できる!!

商品開発にまい進しております。
発売まで今しばらくお待ちください。

三本立盆養の例 (7月末定植の試験用)



使用 葉長 17~18センチ
未使用 葉長 14~15センチ

サシ芽~苗 (7.5センチポット) サシ芽 9月5日 鉢上げ 10月6日



サシ芽の水上げ時使用 生育の違いがよくわかる
未使用

よく育つ土づくりは 手順どおりに作ればだれでもできます。

これだけは避けたい肥料の選び方、使い方

未発酵の乾燥肥料と鉢中段への施肥を止めるとイイ花成功率はグ〜ンと高まる。

現在、乾燥肥料を作る方は減っていますが、依然作られている方もいます。よほど“こだわりと技術”がない限りはおすすめできません。

一般的には購入して使用することが主流になっています。そこで肥料の“選び方”が問題となります。

菊つくりにおいては有機肥料を発酵した伝統的な乾燥肥料を使用します。

しかし近年、乾燥肥料と称した未発酵の有機肥料を乾燥肥料に位置づけた商品が販売されています。

しかし、菊つくり（バラ等、コンテナ鉢やコンテ栽培）に使用できる最低条件の“発酵”がしてない為に、鉢の中で発酵が始まり、発酵ガスによる“根いたみ、根ぐされ”がいつ起きても当然の結果です。夏の暑さを考えると、大きな失敗に繋がるのは当然の成り行きです。ココを改めると一年を棒に振る大失敗にはならないと考えます。

有機肥料を購入する場合は“発酵済み”であるかを確認しましょう。（肥料を選ぶのも菊つくりのうち）

化学肥料が乾燥肥料に?? … 一輪の花を重んずる趣味の菊つくりを根底から狂わす結果となる。

化学肥料を“菊乾燥肥料”として売られている商品もあります。

中身はほぼ化学肥料であると考えられます。

これらの商品と弊社の“有機質主体の乾燥肥料”とは効きめも出来映えも全く別のもとお考えください。

乾燥肥料の成分が化学肥料や化学肥料主体であれば必ず「葉がドス黒くなる」「葉が硬くなる」「葉が巻く」など一目瞭然の症状となって現れます。



菊養源6-6-5

これは良い花の咲かない生育の姿と言われています。

同時に毛細根の発達が阻害され、リン酸やカリ・ミネラル等の吸収が悪く、チッ素のみが多く吸収された状態となり、「花の色ツヤが悪い」「花卉が硬くカサつく」「花に気品がない」「花が大きくなる」など菊つくりで最も嫌われる生育状態となってしまう。

液体肥料にもアミノ酸を配合した、アミノ酸液肥と化学肥料を水に溶かしただけの液体肥料があります。

一般的には化学肥料を水に溶かしたものが売られている為、前段で説明した化学肥料の生育をします。

液体肥料には、有機肥料も化学肥料もないと考えている方もいるようですが、これは間違いです。

さらに「アミノ酸液肥」は、高品質、高性能液肥の代名詞となっています。「アミノ酸液肥」と表示をすることで高品質の液肥に見せかけることができます。

その為に僅かの量のアミノ酸を配合した、本来の効果がでない“見せかけ商品”が市場にあることも事実です。これら化学肥料を主体とした液肥を使用しているのは、期待する菊つくりはできません。

アミノ酸の効果を本気で追求した弊社の資材とは全く別物です。

購入に当たっては充分にご確認いただくことをおすすめいたします。

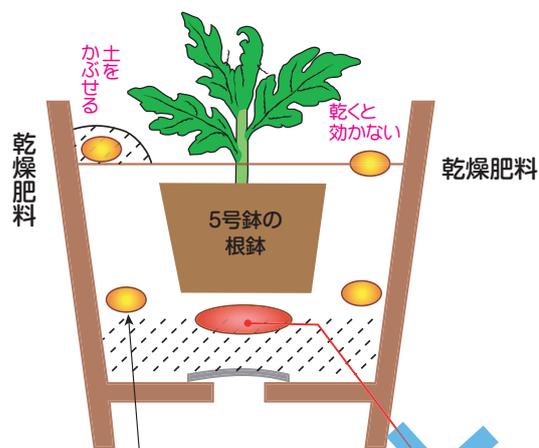
この使い方は危険すぎます

毎年問題となっているのが、定植時の肥料の使い方です。定植時に鉢の中段に1合〜2合入れている方がいます。また、植え込みする時の培養土に混ぜ合わせている方もいるようです。

いずれの方法も培養土中の肥料濃度が非常に高まる為、根の伸長が阻害され、根張や毛細根の発達が悪くなってしまいます。

さらに、根ぐされの発生原因にもなっています。

特に近年の夏の暑さでは多くの方が経験されています。定植時のみならず肥料濃度を低く保つことにより、根の働きが高まり、根張がよくなり、肥料の吸収力も高まる為、多量の施肥には充分に注意することが大切です。



もしここに置いた場合は表土には置かない。追肥は2週間後。（表土のみが基本）

乾燥肥料 中段施肥

水を掛けると急に溶け出し、培養土全体の肥料濃度が濃くなり「根いたみ、根ぐされ」の原因となる。化学肥料はさらに条件が悪くなる。

当社の土と肥料を
使用すれば
ココまで出来ます。
ぜひお試しください。

解体新書ならぬ

最優秀花 解体菊書

して
みました!

根が鉢の中心までよくできた株は 幹・葉・花 すべてよい

地 天 人



幹の太さ



11ミリくらい
ありました

幹の太さ



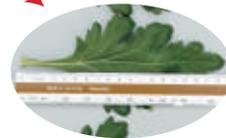
10ミリくらいは
ありました

花径は
約25センチ
くらい



11月30日撮影

葉っぱが乱れているのは
花への影響を見る為に
みらい500倍を
11月10日以後に2回
与えています。



葉の大きさ
約19センチ

主な使用資材



鉢から抜いたら
外周部を見ても
意味がない。
鉢の中心部に
いかに根があるか

ココ大切

踏んでも根鉢が
くずれないほど
根が張っています。

コレだけ
根がある!

拡大

根鉢を縦に切って
中心部の根張を見る。

11月15日頃なら
白い根が多く見られたと
思います。



11月30日撮影

栽培の特徴

7月末までは液肥のみで根つくりに専念。
8月より乾肥を与え木つくりをしています。

お申込み・お問い合わせは

ウチダケミカルコーポレイション

Tel.029-869-1777 Fax.029-869-1666

〒300-4204 茨城県つくば市作谷1711-12 郵便振替 00820-6-96628